

# 第5章「命の大切さ」を実感させる教育プログラム

## 授 業 プ ラ ン

1 「命の大切さを実感させる教育プログラム」 授業プラン内容一覧

章	番号	学年	テーマ	学習・体験	実践の参考となる教育プログラムモデル
小学校編	1	4年	「死」について考えよう — 命に関する絵本を使って —	絵本や詩をとおして命の大切さを考える。	③
	2	4年	人間マップをつくるう	今の自分の姿を紙でかたち取り、自分の紹介文を貼り付けた「人間マップ」を制作し成長を実感する。	②
中学校編	1	2年	生き方から考える「命」	星野富弘氏の詩画から「いのち」を考える。	③
	2	1年	ストレスと上手につき合おう	ストレスについての理解を深める。	⑤
高等学校編	1	4年	言葉のひとり歩きを考えるーブログ・メールをとおしてー	インターネット上のコミュニケーションについて考える。	④
	2	1年	「支援」を考える	支援について考えるロールプレイング体験	④

## 2 授業プランの活用について

子どもたちの状況や学校での指導計画に基づいて実践された「命の大切さを実感させる教育プログラム」より、授業の進め方を中心とした詳細な内容を授業プランとして提示しています。また、子どもたちに「命の大切さ」を実感させるための教材・資料等の活用例についてもまとめています。

**ストレスと上手につきあおう** 第1学年

授業プランの概要を示しています。

養護教諭によるストレスについての概念や対処法等を学習したあと、スクールカウンセラーによるリラクゼーションを体験し、セルフコントロールの大切さを学びます。

- 実践のねらい
    - ◇感動の体験
    - ◇感性を育む
    - ◇想像力の育成
  - 事前の教員研修
  - 準備
- ストレスについての理解を深め、人や物を傷つけないストレス対処法を知る。
- 人には様々な感情があり、然なことであると気づかせ
- ストレスは誰にでもあり、適切な対処が大切であることを理解させるとともに、自分に合ったストレス対処法を考えさせる。
- ストレスマネジメント 第3章 教職員
- 授業を実施するにあたって必要となる教員研修及び準備物等について記載しています。
- ・関連する内容について保健等の教科書を確認しておく。
  - ・スクールカウンセラーと打合せを行い、役割分担をしておく。

授業のねらい及び授業のねらいを達成するために、どのような感動の体験をするか、子どもたちの感性や想像力にどのように働きかけるかなどの「指導のポイント」を記載しています。

### 【教育プログラムの概要】

1次	<ul style="list-style-type: none"> <li>○構成的グループ・エンカ</li> <li>・「いいとこさがし」</li> <li>・「私は私が好きです。な</li> </ul>	授業プランの前後にどのような学習・体験を行ったか、教育プログラム全体の流れがわかるように概要を示しています。
2次	<ul style="list-style-type: none"> <li>○福祉学習</li> <li>・キャップハンディ体験（ハンディキャップのある人の状況を体験する）をするとともに、バリアフリーについて考える。</li> <li>・障害とともに生きる人の話を聞く。</li> <li>・自分の命を「一生懸命に生きる」ことについて考える。</li> </ul>	
3次	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ストレスマネジメント体験</li> <li>・自分のストレスを知り、様々なストレス対処法を理解する。</li> <li>・スクールカウンセラーによるリラクゼーション体験をする。</li> </ul>	授業プラン

●授業の展開  
(導入)

児童生徒の学習活動を太字で示しています。

1 学習のねらいについて知る。

この時間はストレスについて学びます。ストレスとは何なのか、ストレスに上手に対処するための方法について学習します。

(展開)

2 ストレスについて考える。

どんな時にストレスを感じますか。

(留意点・ポイント)

- 日常生活の中で、「**緊張したこと**」「**緊張したこと**」等を思い出し、**教員の指示や説明、発問**を思い出し、**ストレスを感じて**います。
- 厚生労働省等のストレスについての調査結果を示し、自分と比較させてみる。

- 二人一組になって話し合う時間を設定し、自由に発表できる雰囲気づくりをする。

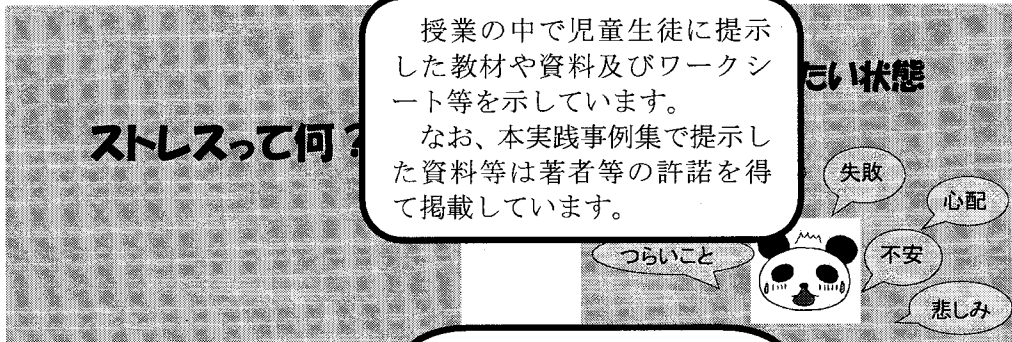
3 自分のストレス反応を知る。

ストレスを感じると、心や体はどうなるでしょうか。

(留意点・ポイント)

- 最近「嫌だな」「腹たつ」「悲しい」など、ストレスを感じたとき、**注意を要する子どもの反応や先生の振り返りに基づいた指導上の留意点等**について示しています。
- 身体面(落ち込)と精神面(落ち込)の両面から、**暴言**などの**ストレス**反応を理解させる。
- 自分がストレスだと感じていることや、ストレス反応について理解させる。
- ストレスの感じ方には個人差があることを

●授業で使用した提示資料・ワークシート等



●授業プラン実践者の感想

「今、本校の子供たちに必要なこと」  
われている「自尊心の低さ」と「コミュニケーション課題を抱えている。そこで「命を大切にすることを大切にする」ことから始めようと考えた。

学校の状況や子どもたちの実際の反応、教育課程上の位置づけ、授業プラン実践の成果や反省点等を記載しています。

した。それは、最近よく言われる。本校もまさにそうした。まず一番基本となる「自分

【参考・引用文献】

- 兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター『学校のストレス』
- 富永良喜・山中 寛 編著『動作とイメージによる ストレス』北大路書房 1999

授業プランを実施するに際して引用、参考にした文献等を記載しています。授業プランの全体を理解する上で参照してください。

## 死ってなに？生きるってどういうこと？—命に関する絵本を使って—

姫路市立東小学校第4学年

死って、なに？生きているってどういうこと？ なぜ人は死ぬのだろう。  
死ぬってどうなることだろう。命の大切さとかけがえのなさについて考えます。

●実践のねらい	命には限りがあることを考えることをとおして、今ある命の大切さを実感する。
●指導のポイント	
◇感動の体験	・死というものを見つめ、死について考えることの大切さを実感させる。
◇感性を育む	・病気で亡くなった子どもについての話から、命の重みを感じさせる。
◇想像力の育成	・すべての生き物には寿命があり、自分の命も例外でないことを理解させる。
●事前の教員研修	教員自身の命の有限性に対する思いをまとめておき、子どもが理解しやすいように準備しておく。また、生きたくても生きられなかった子どもに関する本や絵本などを読み、命の重みを実感する。
●準備	絵本『「死」って、なに？—かんがえよう、命のたいせつき』（文溪堂） 「電池が切れるまで 子ども病院からのメッセージ」（角川書店）より 詩「命」

### 【教育プログラムの概要】

1次	○人の一生について考え、自分の存在や自分の命について振り返る。 ・自分の一生を図で描き、どのような一生を送るかイメージする。 ・人間誕生の神秘を感じ、自分が生まれた時の様子を家族から聞き取る。
2次	○高齢者への理解を深め、老いることの意味を考える。 ・地域のデイサービスセンターや特別養護老人ホームを訪問し、高齢者と交流を深める。 ・寿命について話し合い、過去と未来の自分の生き方を考える。 ・様々な「老い」を考え、高齢者へのいたわりの気持ちを持つ。
3次	○死について考える。 ・死に関する絵本や詩を読み、必ず訪れる死について考える。
4次	○命に関する様々な本を読む。 ・自分が読んだ本の内容や感想を、他者にわかりやすく紹介する。 ・命の大切さについて、自分が伝えたい人へのメッセージを作る。
5次	○これまでの学習を振り返る。 ・命や死について、さらに知りたいこと、他者に伝えたいことを自分で調べ、深める。

授業プラン

## ●授業の展開

(導入)

## 1 学習のねらいについて知る。

人が生まれてから死ぬまでの時間を寿命と言います。人によって寿命は違い、時間の使い方や感じ方もそれぞれ違ってきます。

今日は、寿命の終わりである死について考えます。

(留意点・ポイント)

- ・寿命は人それぞれであるが、生きているものは必ず死を迎えるということを見つめさせる。

(展開)

## 2 絵本『死』って、なに？—かんがえよう、命の大切さ—を読んで生と死について話し合う。

みんな、今生きているよね。では、生きているってどういうことか、考えよう。

(留意点・ポイント)

- ・「心臓が動いている」「息をしている」「話している」「楽しんでいる」等、あたりまえと思っていることが生きていることであることをおさえておく。

人は生まれたときに命がはじまり、やがて死を迎えます。みんなの命もいつか死を迎えます。死ぬってどうなることだと思いますか？

- ・「遊べなくなる」「話せなくなる」「会えなくなる」「何もできなくなる」等のいろいろな意見が予想される。

- ・子どもたちは、自分にとって大切な人（家族や友だち等）のことを思い浮かべていると思われるので、死が大切な人との別れであることに気づかせると同時に、つらく悲しい機会であるからこそ、今生きていることに感謝し時間を大切にしたい、という考え

につながっていくよう、児童の発言を大切にしながら板書等でまとめ整理していく。

人は必ず死にます。つらくても、悲しくても誰もがみんな死んでしまうのです。どうしてみんな死んでしまうのだと思いますか。

- ・命があるものには、すべて終わりがある。生を受けたものには、必ず訪れる老い「老化」について、具体的な例をあげて理解させる。

ここにみんなと同じ歳に病気になった宮越由貴奈さんの詩があります。一緒に読んでみましょう。

みんなと同じ歳なのに病気になって、生きてくても生きられなかったのです。この詩を読んで、どんなことを感じましたか？

- ・病気に負けず闘病する人や、それを支える周りの人々について知り、人間の勇気やたくましさを感じさせる。

- ・自分の命を精一杯生きることの大切さに気づかせる。

- ・同年齢の子どもが死と向き合っているという事実を知ることにより、死は決して自分にとって遠い存在ではない、ということを実感させる。

(まとめ)

## 4 本時を振り返り、感想を書く。

今日の学習から、わかったことや感じたことを書きましょう。

(留意点・ポイント)

- ・直接的な「死」についての授業内容であるため、児童がどのように感じているか個々の状態を把握し、不安感が大きい等の課題があれば、個別に指導する。

1 死ってなに？生きるってどういうこと？—命に関する絵本を使って—（姫路市立東小学校第4学年）

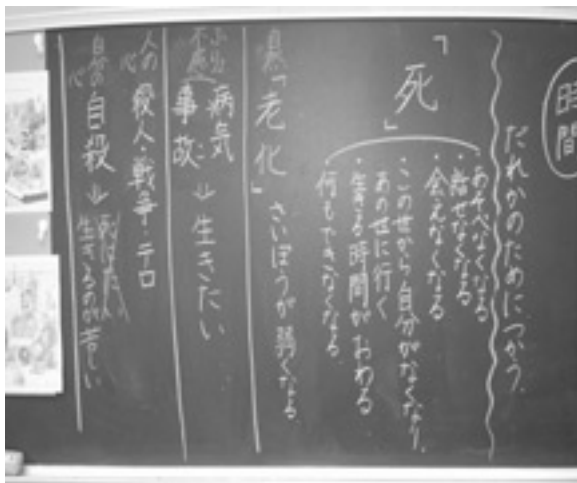
●授業で使用した提示資料等

命

宮越由貴奈（小学四年）

命はとても大切だ  
人間が生きてするための電池みたいだ  
でも電池はいつか切れる  
命もいつかはなくなる  
電池はすぐにとりかえられるけど  
命はそう簡単にはとりかえられない  
何年も何年も  
月日がたつてやつと  
神様から与えられるものだ  
命がないと人間は生きられない  
でも  
「命なんかいららない。」  
と言って  
命をむだにする人もいる  
まだたくさん命がつかえるのに  
そんな人を見ると悲しくなる  
命は休むことなく働いているのに  
だから 私は命が疲れたと言うまで  
せいっぱい生きよう

『電池が切れるまで 子ども病院からのメッセージ』より引用



死ぬってどういうこと？



いのちについて考える

●振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	○命に限りがあることについて、自分の考えをまとめよう。	
感性を育む	○命をむだにしないということはどういうことか、書いてみよう。	
想像力の育成	○あなたにとって、せいっぱい生きるということは、どうすることですか。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

●授業プラン実践者の感想

「命が大切か？」と児童にきくと、ほとんどの児童は「そんなの分かりきっている」「当たり前だよ」と答えるであろう。しかし、子どもたちと毎日接していて、本当に命を大切であると心から実感しているのだろうか？と疑問に感じていた。そこで、命の大切さについて死をとおして考えてみようと思ったのである。

死を学習し命の有限性に気づくことは、児童の不安をあおるように考えられているかもしれないが、実際に学習してみると、命には限りがあることを明らかにしてすることにより、その不安をぬぐうことを実感した。いつ、どのような形で死ぬかもしれない、限りある命だからこそ、生きていることの大切さを理解できていたように思う。また、生と死は切り離すことができないものであり、一対のものとして正しい認識を持つことが大切であると感じた。そのためにも、教師が正確な情報を与えること、可能な限り個人的または断定的な考えを押しつけないこと、などが重要であると考えた。毎日の生活の中で、自分たちの周りには様々な死があるが、それらをより身近なものとして感じる事ができれば、自分自身の命の大切さを考えることにもつながっていくのではないかと思う。

●参考・引用文献

- ・すずらんの会 編『電池が切れるまで 子ども病院からのメッセージ』角川文庫 2006
- ・ローリー・クラスニー・ブラウン/マーク・ブラウン  
『「死」って、なに？—かんがえよう、命の大切さ—』 文溪堂 1998



# 人間マップをつくろう

香美町立香住小学校第4学年

今の自分の姿を紙の上にかたち取り、その中に自分の紹介文を貼り付けた「人間マップ」を作成します。自分が家族から大切にされて成長してきたことや、友だちも同じように大切な存在であることを学びます。

- 実践のねらい
  - ◇感動の体験
    - ・自分の等身大の人間マップを作り、命の始まりの時や誕生時の姿を想像し、10年間の成長を実感する。また、これまで支えてくれた多くの人への感謝の気持ちを持ち、命を自分自身の大きさと表現することにより、命の重みやかけがえのなさを理解する。
  - ◇感性を育む
    - ・命の始まりは0.2ミリの針の穴位の大きさであったが、今の自分の大きさと比較し、10年間の成長を実感させる。
    - ・自分の身体から生きている証（脈・心臓の音等）を探し、生きていることを実感させる。
  - ◇想像力の育成
    - ・一人しかいない自分、かけがえのない自分に気づかせる。
    - ・保護者からの手紙を読み、自分は愛されて生まれ、育てられたのだということに気づかせる。
    - ・自分だけでなく、友だちも周りから愛され生きていることを理解させる。
    - ・将来の自分への思いを綴り、これからの生き方を見つめさせる。
- 事前の教員研修
  - ・自己再発見の体験をする（「命の大切さ」を実感させる教育への提言、教員研修テーマ③）。
  - ・助産師や養護教諭から生命誕生、二次性徴の話聞く。
  - ・保護者に協力を依頼することについて話し合う。
- 準備
  - ・保護者への協力依頼文書、ワークシート、包装紙、はさみ、のり、3cm画の黒の画用紙（中央に針で穴を開けたもの）、赤ちゃんの型紙、聴診器、『赤ちゃんの誕生』（ニコル・ティラー著 あすなろ書房）

## 【教育プログラムの概要】

1次	○妊婦との交流をとおして、命の重みを感じる。 ・妊娠をした時の喜びや苦勞についての話を聞く。 ・これから生まれてくる赤ちゃんと妊婦にメッセージを書く。
2次	○与えられた命を大切にし、より良く生きる方法を考える。 ・エゴグラムを活用し自分の特徴に気づき、良いところを伸ばそうという気持ちを持つ。 ・ストレスマネジメント体験により、感情をコントロールする方法を知る。
3次	○人間マップをつくる。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">授業プラン</span> ・自分の身体から、音や動き等、生きている証を探しだし、友だちと確認する。 ・等身大の自分を写し取り、命のはじまりの時や誕生時の自分と大きさと比べる。 ・自分の紹介文を書き、写し取った等身大のマップに貼り付ける。 ・人間マップの展示会を実施する。

## ●授業の展開

(導入)

**1 学習のねらいについて知る。**

この時間は、これまでの成長の軌跡である人間マップを作ります。

(留意点・ポイント)

- ・家族から聞き取った話をもとに、自分の成長について考えさせる。
- ・子どもを育てる家族の思いに気づかせる。

(展開)

**2 命という言葉からイメージするもの考える。**

命という言葉から、どんなことをイメージしますか？ イメージする言葉をあげてみましょう。

(留意点・ポイント)

- ・考えたり感じたりしたことを、自由に話し合い発表するよう促す。

**3 自分の身体から生きている証を探す。**

同性同士ペアになって、自分の身体から生きている証を探してみよう。音、動き、働きなど身体の中で、生きていることがわかるものを探してみよう。そして探したものを、隣同士で確かめてみよう。

(留意点・ポイント)

- ・どんな音が聞こえてくるか考えることにより、自分の身体に関心を持たせる。
- ・脈、呼吸、心臓の音、目の動き等をペアで確認させる。
- ・一番確認しやすい脈の取り方について説明する。
- ・耳で心臓の音を聴いたり、聴診器を用いて心臓の音を聴いてみたりさせる。

**4 自分自身の10年間の成長について理解する。**

今の自分の姿を紙に写し取り、命の始まりの時、誕生した時と、成長の様子を比べて見ましょう。そして見比べてわかったことを、ワークシートに書きましょう。

(留意点・ポイント)

- ・ペアになったもの同士で、お互いの「今の自分」を紙に写し取らせる。
- ・「命の始まりの時」「誕生した時」「今の自分」を切り取り、並べることで、成長の様子をしっかりと観察させる。
- ・違いの確認にとどまらず、その変化から、一人しかいないかけがえのない自分を実感させる。

**5 西川雅巳氏の詩を読み、「ひとりになつづつのいのち」について知る。**

元気のない友人を勇気づけるために書き始めた指文字の詩です。この詩にあるように、命にはスペアはありません。そして同時に命は自分一人のものではなく、たくさんのつながりの中で生きているのです。

**6 人間マップを完成する。**

今の自分の等身大マップに、自己紹介文や家族からの手紙を貼り付け完成させましょう。

(留意点・ポイント)

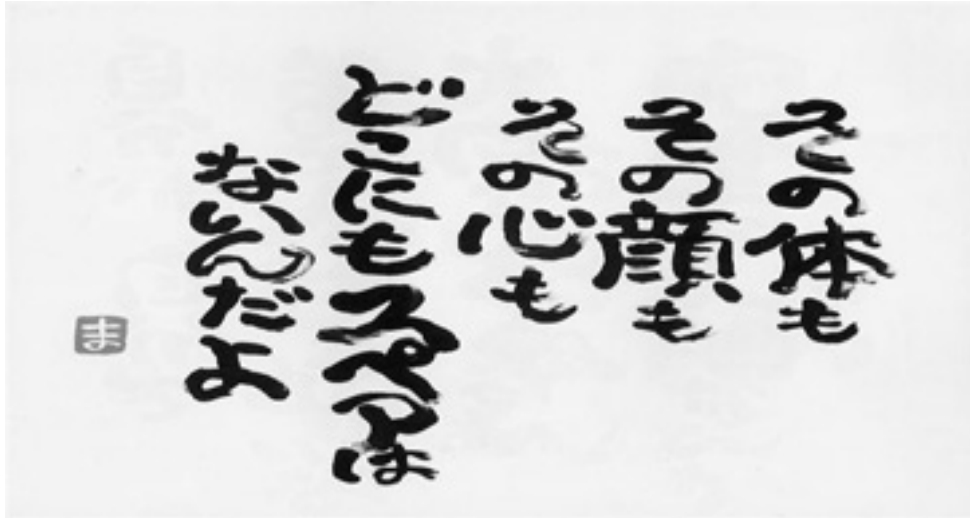
- ・自己のいのちを見つめ直し、自尊感情を高めるように配慮する。
- ・自分の人間マップを完成させるまでの作業過程の大切さに気づかせる。
- ・自分の誕生は家族にとっての喜びであり、自分の命は多くの人のおかげによって誕生し、愛情に包まれて育てられたことを実感させる。

**7 人間マップの展示会を行う。**

(留意点・ポイント)

- ・一人ひとりがかけがえのない存在であることともに、自分も友だちも、今を生きていることを実感させる。

●授業で使用した提示資料



『まちごうてもええ』西川雅巳より

私を紹介します！ワークシート

私の名前は \_\_\_\_\_ 私は \_\_\_\_\_ 歳です。

私の誕生日は \_\_\_\_\_ 平成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日です。

私の名前は \_\_\_\_\_ がつけてくれました。

私の名前はこんな時、こんなふう \_\_\_\_\_ 決まりました。

私の名前にはこんな思いが \_\_\_\_\_ こめられています。

私のうまれたときの身長は \_\_\_\_\_ 私のうまれたときの体重は \_\_\_\_\_ kgです。  
cmです。

私が好きなものは \_\_\_\_\_ です。

私は次のとき「しあわせ」 \_\_\_\_\_ です。

私は次のとき「かなしく」 \_\_\_\_\_

型紙は自分の好きな包装紙を持ってくる児童や両親の新婚旅行時のお土産の包装紙を大事に持ってきた児童もいました。



大きな声で泣いて生まれてきたそうです。同じ日に友だちのY君も生まれました。



●振り返りカード

振り返りカード 年 組 名前（ ）		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○人間マップを完成させ、自分も周りの友だちも大切な存在だということを感じよう。	
感性を育む	○家族からの手紙を読み、自分がどれだけ大切に、愛情をもって育てられてきたか感じとろう。	
想像力の育成	○自分のいのちはたった一つしかないのだということを考えてみよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

●授業プラン実践者の感想

本実践は、保健の授業に位置づけて行った。児童たちは、学級の友だちの人間マップを見て、一人ひとり違うことを実感し、それぞれ大切に育てられてきたことを感じとったようである。人間マップの展示会では、自分のものと見比べながら、「並べてみると、一人ひとりの違いがよくわかるなあ」や「一人として同じ人間はいないんだね。これが今の自分です」などの感想を述べる児童がいた。

人間マップの作成については、大変リラックスした雰囲気の中、児童も教師もお互い楽しみながら取り組むことができた。命の始まりの時を示す黒い画用紙は、自分が誕生した時の型紙の中に自由に貼り付けさせた。「命の始まりの時」「誕生の時」「現在の自分」の三者を比較させることで、成長の過程を強く感じさせることができ、そこから自分の成長を支えてくれた周りの人たちへの感謝の気持ちにつながっていった。命について考える時、抽象的になりやすいが、このように目に見える形で表すことで、より鮮やかに感じられるのではないかと思う。

今後の課題として、自分の紹介文を作成する際、児童は大変意欲的に取り組むことができたが、紹介文の中に書かれている子どもたちの様々な思いを、もう少し引き出すことができたなら良かったと感じた。また、命の誕生は奇跡的なことであること等、命に関する知識を正確に伝え、理解させることが必要であると思う。

【参考・引用文献】

- ・兵庫県教育委員会 「『命の大切さ』を実感させる教育への提言」 2006
- ・今野喜清 安達 昇 編 『いのちを考える授業プラン48 いじめ・不登校・学級崩壊を防ぐ—（教育技術MOOK）』 小学館 2000
- ・ニコル テイラー 『赤ちゃんの誕生』 あすなる書房 1996
- ・西川雅巳 『まちごうてもええ』 自費出版 1999

## 生き方から考える「命」

明石市立江井島中学校第2学年

困難に向き合いながらも、命の限り精一杯生きようとする星野富弘氏の生き方にふれることをとおして、これからの自分の生き方を考えます。

●実践のねらい	困難があっても自分の命を精一杯生かそうとする姿勢を学ぶ。
●指導のポイント	
◇感動の体験	星野富弘氏の生き方や感性にふれ、命の限り精一杯生きることの素晴らしさに気づかせる。
◇感性を育む	人は一人で生きているのではなく、多くの人のつながりや支えがあって生きているのだということを実感させる。
◇想像力の育成	困難な中でも、それに打ち克とうとうとしている人々の思いを押し量らせる。
●事前の教員研修	『愛、深き淵より。』(立風書房)、『鈴の鳴る道』(偕成社)を読み、星野氏の生き方について理解を深める。
●準備	星野富弘氏のプロフィール、ワークシート

### 【教育プログラムの概要】

1次	○働くことについて考える。 ・昨年度の「トライやる・ウィーク」のビデオ映像を見たり作文を読んだりする。 ・働くことについて話し合い、自己の有用性について考える。
2次	○「トライやる・ウィーク」体験をする。 ・お礼の手紙を書くことをとおして、地域とのつながりを考える。 ・「トライやる新聞」作りをし、活動内容や活動場所の様子をクラスで紹介する。
3次	○人とのつながりについて考える。 ・「いいところさがし」をする。 ・「100万回生きたねこ」(『ともだち』(兵庫県教育委員会)をとおして、人を愛し大切に思う気持ちや自他愛することについて考える。
4次	○ <u>生き方について考える。</u> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">授業プラン</span> ・星野富弘氏の詩集『鈴の鳴る道』(偕成社)を読むことで、その生き方を知る。 ・星野富弘氏の生き方から、自分が社会に対して何ができるかを考える。

## ●授業の展開

(導入)

## 1 星野富弘氏の「いのち」の詩と絵を見て、感じたことを話し合う。

この詩と絵を見てどんなことを感じましたか。自由に感じたことを発表しよう。

(展開)

## 2 学習のねらいを知る、

この詩と絵は、星野富弘さんが口に絵筆をくわえてかいたものです。今日は、星野富弘さんの生き方から、命について考えます。

## 3 星野富弘氏について知る。

これは星野富弘さんのプロフィールです。

(留意点・ポイント)

- ・知っている生徒には、自由に発表させる。
- ・氏のプロフィール (p103) を配布する。
- ・星野氏の生き方自分も他者もそれぞれが、かけがえのない命を生きていることに気づかせたい。

## 4 星野富弘氏の考える「いのち」に思いをめぐらす。

星野さんが、「いのち」という言葉にどのような思いを込めたか考えよう。

(留意点・ポイント)

- ・作者の考える「いのち」に思いをめぐらせる。
- ・自分にとって、「生きるのが苦しいと感じる時」や「生きているのが嬉しいと感じる時」のこと考えさせることをとおして、「いのち」という言葉に込めた作者の思いを想像させる。
- ・「いのち」を「生きること」や「自分」に置き換えて考えさせる。

## 5 随筆「鈴の鳴る道」を読み、星野富弘氏の生き方について、考えを深める。

星野さんは小さな鈴をもらって車椅子にぶらさげました。それまでは道にでこぼこや小石があると避けてきた星野さんが、ある時、「チリン」と心にしみるような澄んだ鈴の音色を聞いてから、道のでこぼこを通るのが楽しみとなったそうです。小さな鈴の澄んだ音色が星野さんの気持ちを和やかにしてくれました。

(留意点・ポイント)

- ・「人生のでこぼこ道にさしかかった時に、揺れて鳴る鈴」という表現から困難があっても、自分の命を精一杯生きようとする姿に着目させる。
- ・星野氏が「口で字を書きたい!」と思ったエピソードを紹介し、自分のためでなく「人のために」自分を生かすことについて考えさせる。

## 6 これからの自分の生き方について考える。

自分にとっての「鈴」は何か?理由も考えよう。

(留意点・ポイント)

- ・自分の考えを自由に発表できるような雰囲気を作る。
- ・教師自身の「鈴」について紹介し、生徒の考えるきっかけ作りをする。
- ・作者の生き方に思いをはせ、自分のこれからの生き方と重ね合わせて考えさせる。

## 7 本時を振り返る。

(留意点・ポイント)

- ・困難があっても、「心の中の鈴の音」を聞きながら前向きに生きようとする作者の姿をおさえる。

授業で使用了提示資料

### < 星野富弘氏プロフィール >

1946年	4月	群馬県に生まれる。
1970年	3月	群馬大学教育学部保健体育科卒業。
	4月	高崎市立倉賀野中学校に体育教師として赴任。
	6月	クラブ活動の指導中受傷(頸髄損傷)手足の自由を失う。
1972年	12月	口に筆をくわえて、文字を書き始める。
1974年		手紙のすみに、花の絵を描き始める。
	10月	車椅子に初めて乗る。
1979年	5月	最初の作品展を開く。
	9月	退院、自宅に帰る。

#### 【制作に当たって】

一つの作品を作るのに、10日から15日かかる。

一日に2時間ぐらいしか筆をくわえられない。

筆につける絵の具や水の量などを私が細かく指示したものを、妻が何度も別の紙に塗り、私に見せながら色を作る。

『鈴の鳴る道』(1986) 偕成社より

## ●振り返りカード

振り返りカード 年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	○星野さんの生き方からどのようなことを感じとりましたか。	
感性を育む	○自分を支えてくれている周りの人の思いについて考えよう。	
想像力の育成	○「いのち」を大切にすることは、どうすることなのだろうか。自分の考えを書こう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

## ●授業プラン実践者の感想

「命の大切さ」とはなんだろう。「命」は決して自分だけのものではない。誰かから「必要とされる」こと、それは生きる糧になる。そこから今回のテーマを考えてみた。一人ひとりの命を取り巻く環境として、身近な「他者」として「親」や「家族」がおり、「友人」がいる。そしてそうした人々が暮らす「社会」がある。その「社会」を支える「仕事」や「地域」等があり、それらも含めて「命」に対する考えを深めさせるため、社会体験活動の「トライやる・ウィーク」をプログラムに組み込んだ。「社会に対して何ができるか」ということを考えさせ、そこから「生きること」の尊さを考えさせたのである。「社会」で必要とされるということで、「生きることが素晴らしい」という気持ちにつなげることは短い実践の中では強引に感じる。ともすれば「社会の歯車になれ」とも聞こえる。それが非常に悩むところであった。

そこで、星野富弘氏の詩画集を用いて、困難があっても、前向きに生きようとする星野氏の生き方について考えるというプランを考えた。すると自分の中で、「社会」と「命」が繋がった気がした。決して強引ではなく、自分の大切な命をどう燃やすか。それを考えさせることができるような気がした。

これで終わりではなく、これからも取組の中で、自らがまず「命の大切さ」をもっと深く理解し、生徒たちに伝える実践を続けていきたい。

## 【参考・引用文献】

- ・星野富弘『愛、深き淵より。』立風書房 1981
- ・星野富弘『鈴の鳴る道』偕成社 1986



# ストレスと上手につきあおう

高砂市立松陽中学校第1学年

養護教諭によるストレスについての概念や対処法等を学習したあと、スクールカウンセラーによるリラクゼーションを体験し、セルフコントロールの大切さを学びます。

●実践のねらい	ストレスについての理解を深め、人や物を傷つけないストレス対処法を知る。
●指導のポイント	
◇感動の体験	ストレスを感じている時の自分の心や体の状態を理解させる。
◇感性を育む	人には様々な感情があり、その場の状況に応じて人それぞれ違った感情を抱くことが自然なことであると気づかせる。
◇想像力の育成	ストレスは誰にでもあり、適切な対処が大切であることを理解させるとともに、自分に合ったストレス対処法を考えさせる。
●事前の教員研修	ストレスマネジメント体験（『学校のストレスマネジメント研究』2004第3章 教職員研修参照）
●準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関連する内容について保健等の教科書を確認しておく。</li> <li>・スクールカウンセラーと打合せを行い、役割分担をしておく。</li> </ul>

## 【教育プログラムの概要】

1次	<ul style="list-style-type: none"> <li>○構成的グループ・エンカウンターを使って自尊感情を高める体験をする。</li> <li>・「いいとこさがし」</li> <li>・「私は私が好きです。なぜならば」（国分康孝編『構成的グループエンカウンター事典 2004』）</li> </ul>
2次	<ul style="list-style-type: none"> <li>○福祉学習</li> <li>・キャップハンディ体験（ハンディキャップのある人の状況を体験する）をするとともに、バリアフリーについて考える。</li> <li>・障害とともに生きる人の話を聞く。</li> <li>・自分の命を「一生懸命に生きる」ことについて考える。</li> </ul>
3次	<ul style="list-style-type: none"> <li>○<u>ストレスマネジメント体験</u> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px;">授業プラン</span></li> <li>・自分のストレスを知り、様々なストレス対処法を理解する。</li> <li>・スクールカウンセラーによるリラクゼーション体験をする。</li> </ul>
4次	<ul style="list-style-type: none"> <li>○アサーション・トレーニング</li> <li>・自分の話し方の特徴とその時の気持ちを知る。</li> <li>・怒りをコントロールする方法について考える。</li> </ul>
5次	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自然災害を体験した人の話を聞く。</li> <li>・「生きること」や「死」について考え、自分の人生を大切に生きていくことを考える。</li> </ul>

## ●授業の展開

(導入)

## 1 学習のねらいについて知る。

この時間はストレスについて学びます。ストレスとは何なのか、ストレスに上手に対処するための方法について学習します。

(展開)

## 2 ストレスについて考える。

どんな時にストレスを感じますか。

(留意点・ポイント)

- ・日常生活の中で、「嫌だったこと」「緊張したこと」等を思い出させ、普段自分がどのような時にストレスを感じているかを振り返らせる。
- ・厚生労働省等のストレスについての調査結果を示し、自分と比較させてみる。
- ・二人一組になって話し合う時間を設定し、自由に発表できる雰囲気づくりをする。

## 3 自分のストレス反応を知る。

ストレスを感じると、心や体はどうなるでしょうか。

(留意点・ポイント)

- ・最近、「嫌だな」「腹たつ」「悲しい」など、ストレスを感じたことについて思い出させ、自分のストレス状態を振り返らせる。
- ・身体面（どきどきする、お腹が痛くなる等）、精神面（落ち込む、イライラする等）、行動面（物にあたる、暴言を吐く等）に分けて整理し、ストレス反応を理解させる。
- ・自分がストレスだと感じていることや、ストレス反応について理解させる。
- ・ストレスの感じ方には個人差があることをおさえる。

## 4 ストレス対処を理解する。

ストレスを感じた時、どのように対処しますか。

(留意点・ポイント)

- ・自分のストレス対処の方法について4～5人のグループになって話し合い、考えをまとめて発表させる。
- ・意見として出された対処法を、「支えてくれる仲間」「プラス思考」「気分転換」「リラクゼーション」等に整理し、様々なストレス対処があることを理解させる。
- ・「やりすぎてはいけない対処」（ゲーム、暴飲暴食等）、「やってはいけない対処」（人を傷つける、薬物の使用等）をおさえ、自分に合った適切な対処法を考えさせる。
- ・体と心はつながっており、「栄養を取る」「十分な睡眠」「規則正しい生活を送る」等、体調を整えることは心の調子も整えることにつながることを確認する。

(まとめ)

## 5 本時の学習を振り返り、感想を話し合う。

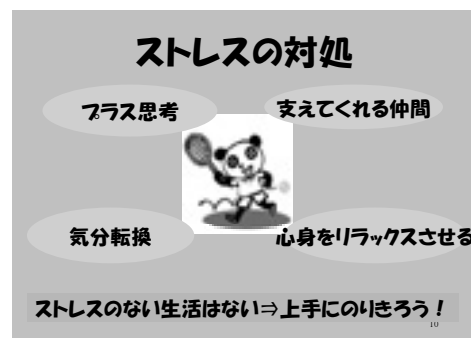
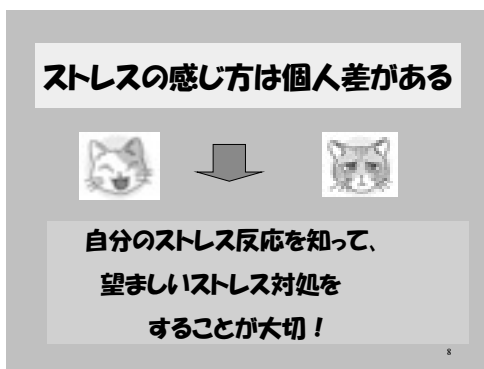
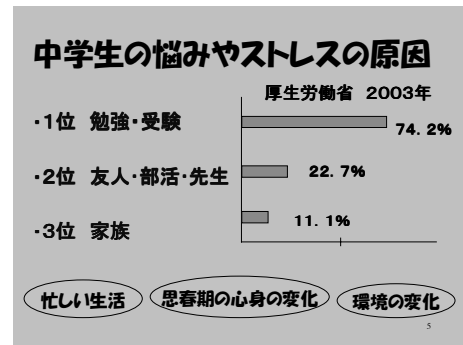
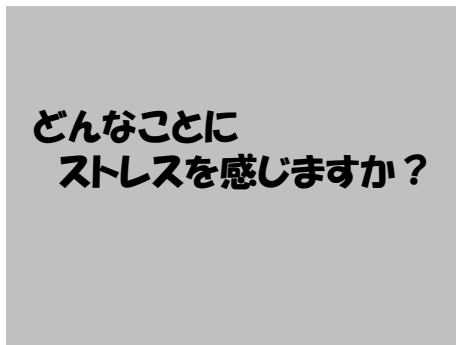
(留意点・ポイント)

ストレスの全くない生活はありません。私たちはストレスと上手につきあうことが大切です。

また、ストレスは人を苦しめるだけではなく、成長させることがあります。うまくストレスを活用して自身を成長させるきっかけとしましょう。

そして忘れてはならないことは、ストレスで疲れてしまった時には、体を休めるように、心を休めることが必要です。次の時間には、スクールカウンセラーの先生によるリラクゼーション実習を行います。

●授業で使用した提示資料



(イラストについては、成美堂出版編集部 編『CD-ROMつき そのまま使えるイラスト・カット大全集』を使用)

●振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○ストレスを感じると、心や体はどうなるのだろうか。	
感性を育む	○人にはいろいろな感情があることに気づきましたか。	
想像力の育成	○自分に合ったストレス対処法についてまとめてみよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

●授業プラン実践者の感想

「今、本校の子供たちに必要なこと」を考えて、今回のテーマを設定した。それは、最近よく言われている「自尊心の低さ」と「コミュニケーション能力の低下」である。本校もまさにそうした課題を抱えている。そこで「命を大切にする」ことを学ばせるために、まず一番基本となる「自分を大切にする」ことから始めようと考えた。

今までは、養護教諭という職務上、健康教育としてのアプローチが中心であったが、本授業プランの「ストレスと上手につきあおう」は、養護教諭がストレスの概念や対処法等について授業をした後、スクールカウンセラーによるリラクゼーション体験を実施し、理論と体験を結びつける試みを多くの人の協力を得て行うことができた。

この体験をとおして、「子供たちを変えたい。」という思いは「変わらなければいけないのは、私なのだ。」と変わっていった。自分を好きになり自信を持つこと、仲間としっかりコミュニケーションをとること、仲間を信頼し共に頑張ること、そして共通の目標をもつこと、これらが出来ていなかったのは実は私自身だったということに気づいた。その気づきが、子どもたちへの予防的な支援につながるということに、遅まきながらたどり着いたというのが実感である。

これからも、同僚の教員と共に考え、共に悩みながら、子どもたちにぶつかっていき、さらに実践を深めていきたいと思っている。

【参考・引用文献】

- ・兵庫県立教育研修所 心の教育総合センター『学校のストレスマネジメント研究』2004
- ・富永良喜・山中 寛 編著『動作とイメージによる ストレスマネジメント教育 展開編』北大路書房 1999
- ・国分康孝編『構成的グループエンカウンター事典』図書文化 2004

## 言葉のひとり歩きを考える—メール・ブログをとおして—

県立農業高等学校定時制第4学年

便利だけれど思わぬトラブルも起こりやすいインターネット。自分も他者も大切にしたいインターネット上のコミュニケーションについて考えます。

●実践のねらい	ネット社会でのマナーや様々なコミュニケーションについて考え、望ましい人間関係を築く力を培う。
●指導のポイント	
◇感動の体験	・普段、当たり前のように使っているメールのやりとりには落とし穴があることに気づかせる。
◇感性を育む	・一般に、メールやブログ等では感情はきちんと伝わらないことを実感させるとともに、相手を思いやることがコミュニケーションの基本であることに気づかせる。
◇想像力の育成	・ネット社会の長所と短所を知り、有効に生かせることを理解させる。
●事前の教員研修	・携帯電話やパソコンの所持等の調査結果について検討し、実態把握をする。
●準備	・「悟の失敗」ワークシート (『すべての先生のための「情報モラル」指導実践キックオフガイド』参照 (社団法人 日本教育工学振興会))

### 【教育プログラムの概要】

1次	○自己理解・他者理解を深める。 ・「誕生日チェーン」 ・「自己紹介・他己紹介」
2次	○言葉のひとり歩きを考える。 ・「言葉の力」やコミュニケーションの難しさを理解する。 ・自他を大切にしたいインターネット上のコミュニケーションを考える。
3次	○よりよく生きるために必要な他者とのコミュニケーションのあり方を考える。 ・自分のコミュニケーションの特徴を知り、よいところを伸ばすための方法を考える。 ・自他の存在を尊重した話し方や行動について学ぶ。

授業プラン

## ●授業の展開

(導入)

## 1 学習のねらいについて知る。

この時間は、メールやインターネット上のコミュニケーションのあり方について考えます。

(留意点・ポイント)

- ・インターネット、ブログ等の危険性について書かれた資料を配布し、これまでの体験を振り返らせる。

(展開)

## 2 インターネット、ブログ、メールで困った事や、失敗した体験について思い出す。

これまで、インターネット、ブログ、メールを利用する中で、困ったことや失敗したことはありますか？

(留意点・ポイント)

- ・現在、トラブルに巻き込まれている生徒がいないか配慮する。
- ・メールでは、相手の表情が見えないことに留意させる。

## 3 メール“落とし穴”について考える。

「悟」の失敗を読んで、質問事項に答えましょう。

(留意点・ポイント)

- ・悟、健太それぞれの気持ちになって考えさせる。
- ・自分なら、どのようなメールを送るか考えさせる。

## 4 メールの使い方やマナーについて理解する。

自分の体験と重ね合わせて、悟の送ったメールの何がいけなかったのか考えよう。

(留意点・ポイント)

- ・メールの文字だけでは、声のトーンや気持ちが伝わらないことを理解させる。
- ・そのため、誤解を招いたり、相手を傷つけたりすることがあることに気づかせる。

## 5 トラブルの対処方法を考える。

メールでのトラブルに対処するためには、どうすればよいのか、話し合ってみよう。

(留意点・ポイント)

- ・数人のグループで意見交換する。
- ・「相手の気持ちになって考えてみる」というコミュニケーションの基本は、インターネット上やメールにおいても変わらないことをおさえる。
- ・「直接顔を見て、相手の気持ちを確認する」など、メールでは伝わらないものがあることに気づかせる。

(まとめ)

メールは大変便利な情報伝達の手段ですが、危険性も併せ持っています。時には相手に誤解を与え、人間関係を壊してしまう場合もあることをわきまえて使う必要があります。

メールや言葉に「いのち」を吹き込むには、使う人の心構えが大切なのです。それは、「相手に対する思いやり」です。

## ●授業で使用した資料・ワークシート



## 教材(資料)「悟の失敗」

サッカー仲間の大の仲良しの二人(悟と健太)は、いつも「ボールいくぞ」「おお」「何やってんだよ、どじだなあしっかりとれよ。」「何言ってるんだ。悟こそ弱チヨロボール。ちゃんと届くような玉を送れよ」などと、大声で言いながらサッカーを楽しんでいる。「ひどい言い方、けんかになるよ。」とまわりから言われても、心が通じ合っているから平気平気と言って、あいかわらず楽しそうにサッカーをやりながら大声で話している。そんなある日試合があった。悟が送ったパスを健太が取ろうとしたが、ころんで敵に取られてしまう。試合は悟達のチームの負けで終了した。

落ち込んでいる健太を励まそうと悟はメールを送った。ところが返事も来ないし、次の日から健太の態度がどうもおかしい。ろう下の向こうから健太がやって来たので、悟は声をかけようとした。いつもならすぐにあいさつしてくれるのになぜか悟を見ないようにしてさっさと行ってしまい避けている。悟は遊びに来た友達の実司にメールの画面を見せて相談した。実司はメールを見るなりあきれて「これがはげましのメール? これじゃ健太が悟と会いたくないのも無理ないよ。落ち込んでいる時にこんなメール来たら、ますます落ち込むのは当然だよ。ぼくだってこんなメールいやだよ。」と言った。悟は驚いて「えっ、いつも話しているように打ったんだけどなあ……。失敗したな。」と言い、もう一度メールを読んで考え始めた。

悟から健太への電子メール 「ちゃんとやれよ 健太！」

「健太へ 今日の試合は残念だったな。せっかくおれがいいパスを回してやったのに、かんじんなところでころぶなんて、どじだよな。試合にもまけちゃうし。ころんだけど、足、けがしなくてよかったな。次の試合ではちゃんとやれよ。悟より」

『すべての先生のための「情報モラル」指導実践キックオフガイド』(社団法人 日本教育工学振興会)より

- ① 日頃、悟と健太はどのような関係だったと思いますか?
- ② 健太にメールを送っている時の悟の気持ちはどうだったと思いますか?
- ③ メールをもらった時の健太の気持ちはどうだったと思いますか?
- ④ 実司から「僕だってこんなメールいやだよ」と言われた時の悟の気持ちはどんなだったと思いますか?
- ⑤ あなたが悟なら試合後、健太にどのようなメールを送信しますか?メール文を考えて下さい。
- ⑥ この後、悟は健太にどのように接したらよいと思いますか? (行動や内容を詳しく書いて下さい)
- ⑦ このようなお互いの気持ちのすれ違いはなぜ起こると思いますか? (行動や内容を詳しく書いて下さい)
- ⑧ あなたにも同じような体験があれば書いて下さい。(行動や内容を詳しく書いて下さい)

( ) 番 名前 ( )

●振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標 (めあて)	自分の振り返り
感動の体験	○言葉がひとり歩きすることについて、自分の考えをまとめてみよう。	
感性を育む	○メールやブログ等でコミュニケーションする際に気をつけなければならないことは何だろうか？	
想像力の育成	○ネット社会で生きるために必要なことについて考えてみよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

●実践者の感想

現在、本校の生徒の大半は携帯電話を所持している。ホームページを開設している者もいて、不特定多数の者とメールやチャットの書き込み等を行っている。携帯電話やパソコン等の情報機器は便利である半面、トラブルに巻き込まれる危険性も多く実際にネット上でトラブルを経験した者もいる。

こうした実態を踏まえ、情報モラルについてだけでなく、生徒たちが仲間を大切に、人を大切にする心を培うための授業プランの作成・実践に取り組んだ。

実践をとおして、生徒たちがコミュニケーションについて真剣に考えるようになったと実感した。それほど大きな変化ではないかもしれないが、他者のことを意識し、人にはそれぞれいろんな背景や事情があることを考えて関わろうとするといった変化があったように感じている。自分のことだけを考える小さな世界を抜け出て、自他共に認め合えるような広い世界へと踏み出せるような実践を積み重ねていきたい。

●参考・引用文献

- ・『すべての先生のための「情報モラル」指導実践キックオフガイド』(社団法人 日本教育工学振興会) 2007
- ・NHK週間こどもニュースホームページ (2004年7月17日放送、2005年10月29日放送)



## 「支援」を考える

県立新宮高等学校第1学年

人を支援するとは？一人ひとりをかけがえのない存在として尊重した支援のあり方とは？  
体験ワークをとおして支援のあり方について学びます。

- |  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●実践のねらい</li> </ul>  | <p>支援のあり方について考えることをとおして、自他を大切にすることについて考え、一人ひとりがかけがえのない存在であることを実感する。</p>                            |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●指導のポイント</li> </ul> |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>◇感動の体験</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者を支えることができる自分自身の可能性に気づかせる。</li> </ul>                     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>◇感性を育む</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な状況で生きる人を知ることとおして、生命の尊重、命の尊厳に思いをめぐらせる。</li> </ul>        |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>◇想像力の育成</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の思いや気持ちを汲み取り、自分にできることや支援のあり方、支え合うことについて考えさせる。</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●事前の教員研修</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関や老人福祉施設等の関係者から、「支援について」というテーマで話を聞く。</li> </ul>         |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●準備</li> </ul>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人ひとりを把握し、学級内の人間関係を掌握しておく。</li> </ul>                    |

### 【教育プログラムの概要】

授業プラン

1次	<p>○支援を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「支援のあり方」について体験的に考える。</li> <li>・様々な障害に負けず全力で生きる姿（DVD等の資料）を見て、意見交換をする。</li> </ul>
2次	<p>○県立西播磨リハビリテーションセンターを見学する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車いす体験をする。</li> <li>・障害者スポーツを体験する。</li> </ul>
3次	<p>○高齢者宅を訪問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問先の高齢者から戦争体験についての話等を聴き取る。</li> <li>・聴き取ったことをクラス全体で発表する。</li> </ul>

●授業の展開

（導入）

1 学習のねらいについて知る。

この時間は、人を支援するという事について考えます。支援のあり方について考えることをとおして、他者を大切にしたい関わりについて、また人を支えるということはどういうことなのかを考えます。

（留意点・ポイント）

- ・真剣に取り組ませる雰囲気作りをする。

（展開）

2 自分が他者に支えてもらった体験について思い出す。

自分が他者に支えてもらったときのことを思い出してみましよう。その人とのどのような関わりによって、支えてもらったと感じましたか。

（留意点・ポイント）

- ・人と人とのつながりの素晴らしさに気づかせる。
- ・言葉がけなどの言語的なコミュニケーションと、相手の思いを感じ取るなどの非言語的なコミュニケーションに分けて整理する。
- ・つらい体験そのものを思い出させるのではなく、支えてもらった関わりに焦点をあてて話し合わせる。

3 支援のあり方について、体験をとおして考える。

けがにより、利き腕が自由に動かせない友人A（三角巾で腕を固定する）を支援することを想定し、自分ならどのような援助をするかを考えてみましょう。

〔方法〕

- (1) 4人グループを作る。
- (2) 支援を必要としている友人役（A）は、

何をしようとしているか、何をしたいか、どうしてほしいかについて記されたメモ（下記〈ケース〉に例示）を黙読し、その内容を他のメンバーには伝えることなく演じる。

- (3) A以外の方は、Aの様子から何を望んでいるかを想像し、ワークシートに記入する。

また、自分がAに対してどのように行動するかについてもワークシートに記入する（他のメンバーとは話さず、思うままを記入する）。

〈ケース〉

A1：『今日の荷物は重たいなあ。どうやって運べばいいかな』

A2：『友人に自分の気持ちを聞いてもらいたいな』

A3：『明日提出のレポートが、まだできていないなあどうしよう』

A4：何も支援を望んでいない。

- (4) ワークシートに記入したことを、実際の行動に移す（言葉かけも含めて）。

- (5) Aは自分の求めていた支援をメンバーに伝える。また、支援を受けた感想をメンバーに伝える。

- (6) 全員が交代してAの役割を体験し、(1)～(5)を繰り返す。

- (7) この体験ワークをグループで振り返る。

- (8) グループごとに、代表的な感想をまとめ、発表する。

（留意点・ポイント）

- ・体験ワークをとおして、感じたことを自由に発表させ、多様な援助方法があることに気づかせる。
- ・気持ちが伝わったときの喜び、相手の立場に立って気持ちを考えることの大切さに気づかせる。
- ・それぞれが大切な一人の人間として尊重される支援のあり方を考えさせる。

4 本時を振り返る。

（留意点・ポイント）

支援のあり方は多様であること、人として尊重した関わりをすることの大切さをおさえる。

## ●授業で使用したワークシート

## ワークシート

名前：\_\_\_\_\_

○自分が他者に支えられた体験を思い出そう。

--

○自分の演じた役割内容（\_\_\_\_\_）

○支援を受けた感想を書こう。

--

○A（ ）に対する援助方法を書こう。

●Aの求めている支援は？
●自分の行う援助

○A（ ）に対する援助方法を書こう。

●Aの求めている支援は？
●自分の行う援助

○A（ ）に対する援助方法を書こう。

●Aの求めている支援は？
●自分の行う援助

●振り返りカード

振 り 返 り カ ー ド		
年 組 名 前 ( )		
	学習・体験の目標（めあて）	自分の振り返り
感動の体験	○他者を援助する体験をとおして感じたことをまとめよう。	
感性を育む	○相手の主体性を尊重した関わりとはどのようなものだろうか。	
想像力の育成	○人と人が支え合うために必要なことについて考えよう。	
全体を振り返っての感想：		
先生から：		
家庭から：		

●授業プラン実践者の感想

人との関わり方には2通りの方法があると思う。一つは「指示的」な関わり方で、あと一つは「支援する」関わり方である。福祉の基本姿勢は「支援」だと思う。心の通い合うコミュニケーションを考えることをとおして、支援のあり方を考える授業プランを作成し実践した。

心の通い合うコミュニケーションとはどのようなものか、それを考えさせるため、今回の体験ワークを設定した。前者の「指示的」な関わり方は、上から下へのコミュニケーションを図ること、つまり、「こうしなさい」等のような言葉かけが多くなる。それに対し、「支援する」関わり方は、相手の主体性を尊重しながら、相手が「どう思っているのか」「どうするのか」を支えていく。人を支援する時には、この視点をもつことが重要である。

生徒はこの体験ワークをとおして、支援の基本を学んでいった。最初は「きっとこうだろう」「これに違いない」といった思いこみによる援助になっていたが、何度かメンバーが交代し繰り返していく中で、少しでも相手の声（話は出来ないが、身振りや表情など）から傾聴・共感することが自然に出来るようになっていったように思う。

また、自分の思いがどうすれば相手に受け止めてもらえるかも考え出した。自分の気持ちが相手に伝わり受け止めてもらったときの笑顔、また、それを目指して支援することが大切なことであると実感したように思う。

一人ひとりが大切な人間として尊重される「支援」を目指すこと、それが相手を大切にすること、ひいては「命を大切にすること」につながると気づいたと感じている。これからも、福祉を学ぶ生徒と「支援」について共に考え、さらに実践を深めていきたい。